総合

人吉球磨

着地型観光を強化

「時感の旅」新商品を展開

熊本県の人吉球磨エリアでは、着地型の体験プログラム「時感（じかん）の旅」の提供を通じた観光の活性化に取り組んでいる。人吉球磨広域行政組合は12月6日、「時感の旅」の発表会を人吉市の旅館、清流山水花あゆの里で開いた。地元10市町村の関係者にコンセプトや新しいプログラムを紹介。着地型観光への意識を高め、地域を挙げた取り組みにしていきたい考えだ。

人吉市で開かれた発表会

地域挙げて推進へ

発表会では、「時感の旅」のコンセプトなどをJTBコミュニケーションズ九州シニアアドバイザー（花笑み工房主宰）の猿渡弘治氏が紹介したほか、人吉温泉観光協会理事（清流山水花あゆの里社長）の有村充広氏が販売手法などについて説明した。

「時感の旅」は、旅行者の滞在時間や宿泊を増やそうと、地元関係者のワークショップなどを経て企画された。「時を感じる。五感に響く。」をキャッチコピーに付加価値にこだわったプログラムを提供し、リピーターの確保や口コミの喚起など、人吉球磨のファンの獲得を目指す。

15年秋～冬には、地域資源を生かした13の体験プログラムを展開した。これまでにサイクリングで里山を巡り、あぜ道で農家料理を楽しむプログラム、自分で作った箸で里山の料理を味わうプログラムなどが一定の評価を得ている。

11月上旬から提供している、旅館の女将らが考案した新プログラムを紹介。着物を着て街歩きと抹茶を楽しむプログラムをはじめ、朝の座禅、球磨焼酎の蔵見学などのプログラムを説明した。

体験プログラムなど着地型商品の情報は、人吉市のつばめ旅行センター、人吉温泉観光協会、くま川鉄道に集約し、提供するほか、ウェブを活用したPRを強化していく。

神戸ルミナリエ 会期中に325万人

震災の鎮魂、復興願う

阪神・淡路大震災の犠牲者の鎮魂と復興への願いを込め、光の芸術作品で神戸の冬を彩る「神戸ルミナリエ」が2016年12月2日から11日まで開催された＝写真。1995年の開始以来、22回目の開催。会期中に325万人が訪れた。

今回のテーマは「光の抒情詩」。旧外国人居留地界隈から東遊園地まで、約30万個を超えるLED電球を使用して光の芸術作品を展示した。

会場では昨年に引き続き、神戸ルミナリエを継続的に開催するための「一人100円」募金への協力が呼びかけられた。電子マネー「楽天Edy」による募金コーナーも設置されたほか、売り上げの一部が開催費に充てられる公式グッズとして、ピンバッジ、キーホルダー、ブックマーク、ボールペンセット、タイルマグネットセットなどが販売された。

協賛事業「踊る！KOBE光のファウンテン」も昨年に引き続き開催された。東遊園地南側の噴水広場を賑わいのゾーンと位置付け、ルミナリエ作品の設置、神戸ブランド商品、中華料理のブース、音楽のステージイベントなどが実施され、多くの人でにぎわった。

散策路などが整備された寺山

修善寺温泉

寺山の景観、散策PR 歩道や案内板を整備

静岡県・修善寺温泉の地名の由来となっている修善寺の北側の森がこのほど整備され、観光客や地域住民が散策できるようになった。修善寺温泉の観光関係者は、地元で「寺山」として親しんできた森の景観、散策を新たな観光資源としてPRしている。

寺山は、近年の台風災害や管理不足で荒れた部分があったり、朽ちた古木などが散策路をふさいだりしていたが、静岡県が保養、休養のための森として整備事業を実施した。

整備の対象となった森林は約10・8㌶で、斜面に工事を施し、危険な木などを伐採したほか、歩道や案内板を整備した。

11月7日には、整備した歩道のテープカット、歩き始めなどの式典が関係者によって行われた。静岡県や伊豆市、修善寺温泉などの関係者が出席した。

式典が開かれた11月7日には、修善寺の秋の風物詩「桂谷八十八ケ所巡拝」も始まり、多くの巡拝者が3日間をかけて、寺山を含めた各地に点在する札所を巡った。四国八十八ケ所と同様の功徳が得られると言われている。

九州―釜山航路 旅客人数は微増

国土交通省九州運輸局はこのほど、九州（山口県下関市含む）と韓国・釜山を結ぶ旅客定期航路の2016年度上半期の実績をまとめた。6社3区間の旅客輸送実績は、前年同期比1・0％増の54万1千人だった。

韓国人利用者は熊本地震の影響などで博多・下関航路で減少したが、対馬航路では増加した。

旅館協会東北の11月宿泊実績

人員、売り上げ減少

日本旅館協会東北支部連合会はこのほど、会員旅館を対象に実施している宿泊実態調査の2016年11月の結果をまとめた＝表。東北6県の合計では、前年同月の実績に対して宿泊人員が4・6％減、売り上げが4・9％減となった。

2016年11月の宿泊実績

	回答施設数（軒）	宿泊人員（％）前年同月比	売り上げ（％）前年同月比	外国人泊数（人）
青森県	13	101.7	105.0	8,158
岩手県	23	93.8	93.8	8,403
秋田県	5	99.6	99.6	210
宮城県	20	91.9	90.8	1,984
山形県	19	94.1	89.5	1,041
福島県	18	98.7	98.4	482
合計	98	95.4	95.1	20,278

回答施設数は東北6県に所在する98軒。

青森県は宿泊人員1・7％増、売り上げ5・0％増とプラスだったが、他の5県は宿泊人員、売り上げの両方がマイナス。山形県は売り上げが10・5％減となった。

日並びの関係では、15年は「勤労感謝の日」が3連休となったが、16年はそうならなかった。また、11月22日に起きた福島県沖を震源とする地震では一時、津波警報が出るなどしたため、宿泊のキャンセルが発生した施設があり、業績に影響したとみられる。

九州への外国人入国者数

9月は23％増の33万人

国土交通省九州運輸局が12月7日に法務省の出入国管理統計を基に発表した2016年9月の九州への外国人入国者数（確定値）は、前年同月比23・0％増の32万7001人となった。熊本地震の影響は残るものの、前年同月の実績に対して6月以降、4カ月連続で増加した。

9月の外国人入国者数のうちクルーズ船の船舶観光上陸数は12万8314人で、全体の39・2％を占めた。

国・地域別の入国者数を船舶観光上陸を含まずに見ると、韓国は前年同月比37・4％増の11万9230人、台湾は同8・9％増の2万3065人、中国は同6・3％減の1万8354人、香港は同55・1％増の1万6373人だった。

10月の入国者数の速報値（船舶観光上陸は含まない）は、前年同月比12・9％増の20万8689人となっている。

竹内美樹の 口福（こうふく）のおすそわけ 161

豆でいてネ！

新年号ということで、おせちに入っている縁起物の一つ、豆について。和風おせちの1段目には、本来「祝い肴三種」と呼ばれる縁起物を入れるのが決まり事。地域によって違うが、黒豆、数の子、田作りの三種とすることが多い。

子孫繁栄を願う数の子、五穀豊穣を祈る田作りとともに三種に入る黒豆は、マメ（健康）でいられるようにとか、マメ（勤勉）に働けるようにとか、縁起担ぎであることはご承知の通り。

縁起物とされる理由は他にも、黒が邪気を払ってくれる色とされていることや、七福神の大黒様にちなんだものとも言われる。例年12月9日前後に大黒様を祭る「大黒様の年取り」という行事が行われる地域があり、この日には黒豆料理を食べるそうだ。

黒豆は、大豆の一種。一般的に大豆と呼ばれる黄大豆と、黒豆の黒大豆の他、緑色の青大豆もある。

考えてみると、大豆ってエライ。暗い所で発芽させればモヤシになり、未成熟の豆は枝豆として食べられ、成熟した大豆は煮豆だけでなく、味噌や醤油、豆腐や納豆の原料にもなり、油も搾れる。お餅をおいしくいただける、きな粉になるのも忘れちゃいけない。しかも「畑の肉」と言われるほど、タンパク質が豊富。

だから、小粒なのに「大いなる豆」ということで大豆と称されるようになったようだ。ちなみに英語ではsoybeanだが、大豆は17世紀に日本からヨーロッパに伝わったとされ、soyの語源は醤油と考えられている。

黒豆に話を戻そう。黒豆を煮る際、いかにシワが寄らないようにふっくらと仕上げるかに苦心するが、実はコレ、関西風なのだそうで、関東では「シワが寄るまで長生きできるように」と、わざとシワシワに煮る習慣があるのだという。知らなかった！

煮るのが難しいのが小豆だ。小豆はシワが寄ると言うより、むしろ皮が破れやすい。中央から皮が割けた状態が切腹を連想させるため、武家社会の関東では祝い事に使うのを嫌い、慶事に食す赤飯には小豆でなく、皮が厚く破れにくいササゲを使うようになったそうだ。公家社会の関西では小豆のままである。

小豆の中でも大粒で煮崩れしにくい「大納言」という品種がある。その名の由来は諸説あるが、皮が破れないため切腹とは無縁の公家の官位を名付けたという説が主流。武士の縁起担ぎは、魚の背開き・腹開きだけではなかったのだ。

さて、このササゲ、漢字では「大角豆」と書く。クイズ番組の難読漢字問題に出て来そう！　マメ科ササゲ属なのは小豆と同じだが、種が違う。サヤごと食用にもなり、外見はサヤインゲンとよく似ている。そう、豆には他にも、豆粒だけでなくサヤごと食べられる品種もあるのよね。

豆好きの筆者、まだまだ書き足りないので続きは次号で。2017年、皆さまがマメでいられますようにと祈りつつ、自分自身はふっくら煮えた黒豆のように、少しでもシワ無く歳を重ねたいなぁと願う。

※宿泊料飲施設ジャーナリスト。数多くの取材経験を生かし、旅館・ホテル、レストランのプロデュースやメニュー開発、ホスピタリティ研修なども手掛ける。

トレ泊 ブルート宿

小坂レールパーク

目標上回る2121人

2月から予約受け付け

秋田県小坂町の観光関係者が12月13日、東京都台東区の観光経済新聞社を訪れ、体験型観光施設「小坂レールパーク」の新たな取り組みなどを説明した。

訪れたのは同町観光産業課の對馬修課長補佐と中村長裕主査＝写真。

同パークの目玉となっているのが、宿泊施設として利用している寝台特急「ブルートレインあけぼの」（39室）。上野―青森間を2014年まで走っていたが、廃車になった車両をJR東日本から譲り受け、16年度から宿泊営業を始めた。

4～11月の週末を中心に営業し、「目標だった2千人を上回る2121人が利用した」と對馬課長補佐。17年も4～11月に営業するが、2月からインターネットなどで予約を受け付ける。宿泊料金（大人）は定員2人のA寝台個室の場合、1人使用が4320円、2人目は1080円。定員1人のB寝台個室は3240円となっている。

17年春から花見の時期に合わせ、観光トロッコを走らせる計画もある。また、とんかつをラーメンにのせた「かつラーメン」を「町の新たなグルメとして売り出したい」と中村主査は力を込めた。

小坂温泉郷

都内で初のイベント

旅館女将が本社訪問

飲泉できる高濃度天然炭酸泉が湧出している岐阜県下呂市の小坂温泉郷（湯屋温泉、下島温泉など）。炭酸泉の効能を知ってもらおうと12月12日、東京・日本橋で初のセミナーを開催した。13日には旅館の女将らが観光経済新聞社を訪れ＝写真、温泉郷の魅力をPRした。

セミナーは炭酸泉の魅力を美と食の切り口で紹介。炭酸美容専門家の高橋弘美さん、料理研究家の高橋善郎さんが講師を務めた。約40人が参加したという。

観光経済新聞社を訪れたのは仙游館の伊藤博子さん（小坂の炭酸泉シュワシュワ会会長）、泉岳館の熊崎泰子さん、奥田屋の奥田多美子さん、ニコニコ荘の桃原美奈子さんら5人。女将さんたちは自然の豊かさや胃腸にやさしい炭酸泉、鉱泉湯豆腐のおいしさのほか、宿の魅力もPRした。

小坂町は下呂温泉や飛騨高山から車で30～40分の山間地にあり、炭酸泉や大小約200の滝、御嶽山などの観光資源がある。

12月から3月まで
冬季限定企画実施
小坂温泉郷

小坂温泉郷は12月1日から3月末まで、無料宿泊券などが当たる冬季限定プランを実施する。宿泊料金は特別価格と銘打ち、1泊2食付きで9千円からとした。

仙游館、奥田屋、泉岳館、ニコニコ荘が参画。宿泊客に抽選で無料宿泊券が当たるほか、日帰り温泉施設の無料入浴券プレゼントなどがある。

加賀藩・前田家ゆかりの茶室得寮庵・吟松庵

美術館に泊まる
至福の時間（とき）―。

能登半島・和倉温泉
加賀屋別邸
松乃碧
MATSUNOMIDORI
〒926-0175 石川県七尾市和倉町ワ部34番地
TEL.0767-62-8000 松乃碧 検索
松乃碧の過ごし方HPにて公開中

110 YEARS OF HOSPITALITY 一心一意のおもてなし

能登半島和倉温泉より
謹んで新年のお慶びを
申し上げます。

能登半島国定公園・和倉温泉
国際観光ホテル整備法　登録旅館（登旅第177号）
加賀屋
加賀屋予約センター
☎（0767）62-4111
〒926-0192 石川県七尾市和倉温泉 ☎大代表（0767）62-1111 FAX（0767）62-1121 http://www.kagaya.co.jp/ 加賀屋 検索

古都金沢で
伝統の味とおもてなし。

平成29年3月14日 新館お披露目
料理旅館
金沢茶屋
JR金沢駅から徒歩3分
〒920-0853 石川県金沢市本町 2-17-21
TEL.076-231-2225 金沢茶屋 検索